

対象年度		令和 4年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート											
事務事業名		社会人TT等配置事業						予算事業名		社会人TT等配置事業費					
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令						
				10	01	03	20	経常経費							
総合計画体系		未来を担う子どもと 生き生きとした市民を育む地域を目指そう						事業の区分		主要事業					
		地域への愛着と誇り、「生きる力」を育む教育環境づくり								重点事業					
		学校教育の実践						担当課係等		学校教育課					
						学務係									
事業期間		継続 (平成29年度～ 年度)													
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】								【事業開始のきっかけや他市の状況など】							
・TTを市独自に配置し、多くの視点から児童生徒の実態が把握でき、一人ひとりの児童の実態に応じたきめ細かい指導を実施する。 ・介助員を配置することにより授業に集中出来、また学校生活を安全に楽しく送ることが出来る。								ティームティーチング方式の効果が検証され、有効と判断された。県費TTが配置されない小中学校への要望が強かった。学校間格差の軽減のための措置でもある。							
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】								【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】							
・TTの配置 ・介助員の配置								・TT：県費TTが配置されないが35人に近い学級の児童 ・介助員：学校生活で支援が必要な児童生徒							
								【事業をとりまく環境の変化】 文部科学省の意見では、少人数学級以上にティームティーチングの効果が評価されており、学校からの要望も多い。 障害のある児童生徒の保護者の普通学級への就学希望が強まる中で、特別支援学級への通級児童生徒が非常に増加している。当該児童生徒の有意義な学校生活の支援、また他の児童生徒の安定した学習環境のため、介助員の積極的な配置が学校及び保護者から望まれている。							
【令和 4年度 事業内容】				【令和 5年度 事業内容】				【令和 6年度 事業内容】							
・県費TTが配置されない学校に市TTを配置 ・支援を必要とする児童生徒や特別支援学級に通級する児童生徒に介助員を配置				・県費TTが配置されない学校に市TTを配置 ・支援を必要とする児童生徒や特別支援学級に通級する児童生徒に介助員を配置				・県費TTが配置されない学校に市TTを配置 ・支援を必要とする児童生徒や特別支援学級に通級する児童生徒に介助員を配置							
■事業費															
				R02年度		R03年度									
財源内訳	国庫支出金			0		0									
	県支出金			0		0									
	地方債			0		0									
	その他			114		160									
	一般財源			1,857		2,572									
歳入計（千円）				1,971		2,732									
歳出内訳	節（番号＋名称）				金額（千円）		金額（千円）								
	08 旅費				87		123								
	18 負担金補助及び交付金				1,884		2,609								
歳出計（千円）（A）				1,971		2,732									
伸び率（％）						38.60									
備考															

令和 2年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R02年度	R03年度	R04年度
活動 指標	T T配置対象校	校	目標	5.00	5.00	5.00
	必要とする小中学校への配置		実績	5.00	0.00	0.00
	介助員配置対象校	校	目標	12.00	12.00	12.00
	必要とする小中学校への配置		実績	11.00	0.00	0.00
成果 指標	T T配置人数	人	目標	5.00	5.00	5.00
	必要とする人数の配置		実績	5.00	0.00	0.00
	介助員配置人数	人	目標	30.00	35.00	40.00
	必要とする人数の配置		実績	30.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	少人数指導の効果があること、また支援を必要とする児童生徒が増えていることから、学校生活の環境改善に必要である。
妥当性	実施主体の妥当性	B どちらとも言えない	本来は県費教員配置が望ましいため、市で実施する手段が適当であるかの判断が難しい。
	手段の妥当性	B どちらとも言えない	本来は県費教員配置が望ましいため、市で採用する手段が適当であるかの判断が難しい。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	本来は県費教員配置が望ましいため、判断が難しい。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	介助員が当該児童生徒の支援をすることにより、学級全体の学習環境の改善に寄与している。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	多くの介助員が継続して勤務しており、経験を積んだ介助員が増えている。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	介助員について、学校からは実際に配置しているより多い人数の要望があることから、適正な配置ができていないかの判断は難しい。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
支援を必要とする児童生徒（特に自閉・情緒）が増加しており、学校からの要望どおり配置することが困難である。また、人材確保が困難な状況にある。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
令和2年度から会計年度任用制度へ移行したことに伴い、介助員の雇用形態の見直しを行うことが必要とされる。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
方向性の具体的内容 他市の状況を考慮し、学校の要望だけでなく財政的に考慮し、介助員の上限を見直す（設定）する必要もある。	
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。	